

会議録

会議の名称	平成19年度第1回河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会
開催日時	平成20年3月3日(月)午後3時
開催場所	市役所別館 2階 職員組合会議室
議題	(1) 会議の公開について (2) 公共交通の現状と課題について (アンケート調査結果含む) (3) 市の基本的な考え方について
会議資料	会議次第 配席図 委員名簿 資料1 河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会規程 資料2 取組みの経緯 資料3-(1) 公共交通の現状と課題 資料3-(2) 市民アンケート調査結果の概要 資料4 市の基本的な考え方 資料5 市民参加ワークショップの取組状況 資料6 国の制度等 資料7 市が経費負担しているバス路線状況(リーフレット3枚含む)
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	日野委員、梶田委員、阪上委員、中谷委員、堂上委員、松本委員、池谷委員、村崎委員
欠席者	井戸委員
市出席者	(都市建設部)西本部長
事務局	(都市建設部 道路交通室)中村室長 (都市建設部 道路交通室 交通政策課)田和課長、貝野主幹、中野
会議録署名委員	日野委員、梶田委員、池谷委員

1 開会

2 主宰者あいさつ（西本都市建設部長）

3 委員の紹介

4 取り組みの経緯等説明（事務局） 資料1および資料2

5 会長・副会長選出

河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会設置規程第5条により委員の互選とする。

大阪市立大学 日野泰雄氏を会長に選出

河内長野市老人クラブ連合会 梶田忠博氏を副会長に選出

6 会長・副会長あいさつ

7 議事：河内長野市公共交通のあり方に関する懇談会設置規程第6条により日野会長が議長として議事を進行

議題1 懇談会の公開について

<事務局より河内長野市審議会等の会議の公開についての指針の説明>

会議の公開については、会議開催案件、傍聴、議事録の公開とし、会議録は概要議事録を公開することで、日野会長、梶田副会長、池谷委員が確認することで承認された。

議題2 公共交通の現状と課題について

<事務局より資料3 - (1)、3 - (2)に沿って河内長野市の公共交通を取り巻く現状と課題について説明>

質問、意見等

- ・ バス事業の廃止状況については全国的には多いが、京阪神では規制緩和前後で撤退はあまりない。ただし、減便は見られる。
- ・ 行政は交通空白地域としてバス停等から一定の距離で円を描いてカバーしているように見せているが、それで良いのかを一緒に考えたい。市民の皆さんが将来

どうい生活をしたいのか、そのために何が必要かということ積極的に考えないと、税での負担も間に合わなくなる。市民共々河内長野市を元気にすることも含めて考えるべきだと思う。

議題3 市の基本的な考え方について

<事務局より資料4から資料7に沿って市の基本的な考え方等に説明>

質問、意見等

(1) 利用者ニーズとバスの多様化

- ・ 河内長野市では乗合タクシーや地域バスの制度はないのか。
(事務局：以前は乗合タクシーがあったが現在はない。また、地域バス等の制度は行っていない。)
- ・ 利用ニーズに対応したバスの多様化ということで、商工会での運行など色々な形態が導入されている。既存の考え方だけでなく、上手に制度を活用することを考えた方が良い。
- ・ 狭い道への運行のためだけにバスを小型化することは、事業者としては大型と小型の2種類のバスを持つようになり効率が悪いが、乗合タクシーなども選択肢としてあるのではないか。

(2) 観光資源を活用したバス需要喚起

- ・ 観光面では延命寺にはバスで行けるように出来ないかとの意見もある。また、パンフレットを配って電車、バス、タクシーの利用を促すPRをしているが、観光地の周辺に食事するところやお土産もないのもう来ないという人が多い。この点を改善すればバス等を利用して来てもらえるのではないか。また、天見駅周辺で自動車を使わないイベントなども企画している。
- ・ 観光地で自動車利用を制限することは吉野など他でも例があるが、食事は商店会や、バス事業者と連携した弁当サービスなども考えられるのではないか。
- ・ 観光協会としては弁当サービスを実施しているが、他の商店や事業者の参入は難しい。
- ・ 事業者としては採算面を考えた場合難しい面がある。
- ・ 以前は観光施設を巡るバス運行やタクシー運行があったが採算面や乗務員の負担が大きく中止になった。
- ・ バスは逆輸送が問題で、観光と結びつけることも考えられる。
- ・ 高齢者ボランティアによる観光案内を若い人が支援するような仕組みが出来れば、少子高齢化の中のまちづくりに大きな力になると考えられる。
- ・ 老人クラブとしては清掃活動などは行っているが、観光案内的なものは行っていない。他に観光案内ボランティアは現在も活動している。

- ・ 観光資源があり、観光ボランティア制度もあり、観光協会も活動し、公共交通もあるので、協働で取り組めば良い方向になるのではないかと。資源の有効活用と協働をできるかどうか考えるためのワーキンググループのようなものを組織すればよいのではないかと。
- ・ それぞれが持っている情報を共有して協働での需要喚起が進めることができればと思う。

(4) 市民ニーズからみたバスの問題点

- ・ アンケートの対象の人はどうして選ばれたのか。
(事務局：各地区の世帯割合に応じて市内の5000世帯の20歳以上の世帯主に配布しており、年代構成的には高齢者の割合が多くなっている。50台と60台が多いが退職による移動ニーズの変化を見ることもあったが、分析では年齢構成割合の偏りを補正をしている。)
- ・ 公共交通への関心を高めアンケート等にもっと協力してもらうなど直接関わってもらう仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ 河内長野市は免許がないとだめなくらい便利が悪くバスに乗る機会がない。
- ・ これから公共交通を使うのは高齢の人が多くなると思うが、公共交通は料金が高く料金面での改善が必要だと思う。
- ・ 過疎地では便数が少なく1日ばかりで外出する人もいる。タクシー利用も高くなり過疎地ほどバスが必要で、往復割引などもできればよい。
- ・ 学生は定期代が高いので自転車で駅まで行っている。駐輪場と同じくらいの料金になればもっと利用するのは。
- ・ バスに乗る機会が無ければバスの割引などの情報は分からないので、もっとPRすべきでは。
- ・ バス利用については、今使っているけど問題が多いという人と、バスを必要としない人の二つの面から考える必要があるが、地域住民も努力している取り組みもあり、地域の方々と、事業者、行政が傷み分けでスタートしてプラスになるようにすればよい。

(5) 幅広い視点からバス交通を考える

- ・ 鉄道とバスとの連携も考えていかなければいけない。
- ・ 高齢者の身体機能の低下などによる交通事故が多くなっており、バスは今使っていないのでいらないのではなく、将来必要になることもあるといった考えも必要になる。
- ・ 若い人が自転車に乗るとバス離れが進む。公共交通、自転車、車の適正な使い方がある。自動車にかなり依存している状況の中で、いろんな問題が生じてい

るので、公共交通が果たす役割りは大きい。

- ・ 今の市の公共交通に対するの基本的な考え方は、面白くない。事業としての面白みも必要で、楽しく生きがいのある生活を送る、安心して健康的な生活を送る、そのための協働の取り組みや、事業の発展的展望が可能なシステムが必要になるがそういう意味では少し批判的な目で見ること必要ではないか。
- ・ 元気なまちづくりにより医療費や介護費が少なくなることも期待できるので、行政はライフサイクルコストとかトータルでの都市経営の視点で考える必要がある。

以上で議事を終了し、次回に第1回懇談会資料への意見もいただくこととします。

閉会（午後5時30分）

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する

会 長 日 野 泰 雄

副会長 梶 田 忠 博

署名委員 池 谷 育 晃